

モデルプログラム N-3 成長する教師

－教師のキャリアにおける外国人児童生徒等教育の経験の意味－

ねらい	外国人児童生徒等教育の経験やその経験を通して培った力を可視化し、肯定的に認識するとともに、教師としてのキャリアとして意味づけることができる。
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員 <input checked="" type="checkbox"/> 管理職 <input checked="" type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input checked="" type="checkbox"/> 5年-9年 <input checked="" type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input checked="" type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	N 成長する教師
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60 分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 教師のキャリアについて意識する。（15分） ・教師のキャリアにおける外国人児童生徒等教育経験の意味（N）	1. モデルプログラムの評価票を利用して、外国人児童生徒等教育の担当教員として、自身の資質・能力を可視化すると共に、そのキャリアを次の点から検討し、意識化する。 ・教育観とその変容 ・キャリアステージ（着任⇒ミドルリーダー⇒シニアリーダー） ・力量形成（実践力・専門性・組織運営の力） ・個人的経験と教師としての経験
2. 「成長する教師」のイメージを描く。（20分） ・省察的実践家（N） ・教師としての成長（N）	2. 講義と話し合いを通して「成長する教師」のイメージをもつ。 1) 講義を通してドナルド・ショーンの「省察的実践家」について理解する。 ・実践的認識論（「技術的な熟練」の限界） ・行為のなかの省察（内省） 2) 教師は何をきっかけに変容するのか、省察の役割は何かを話し合い、「成長する教師」のイメージをつくる。
3. 外国人児童生徒等教育を経験することの意味を考える。（25分） ・他の領域の専門家との協働（N） ・教師のキャリアにおける外国人児童生徒等教育経験の意味（N） ・リーダーとしての役割 ・社会への働きかけ	3. 外国人児童生徒等教育で経験した困難について話し合い、その経験が教師としてのキャリアにとってどのような意味をもつか話し合う。 1) 外国人児童生徒等教育の担当として困ったこと、それにどのように対処し解決したかを話し合う。 例「日本語でのコミュニケーションができない」 「保護者の教育観と学校の教育方針が異なる」 ◇具体的な経験について話し合った後、次の点から解決方法を捉え直す。 ・異領域との協働、環境づくりの重要性 ・自己の変容 ・新しい価値の創造 2) 上記の経験が教師（教員・日本語教師）としてのキャリアにとってどのような意味をもつか、また、今後リーダーとしてどのように周囲に働きかけられるかについて話し合う。 ・どのような視野の広がりや力量の向上 ・キャリアステージとの関係（可能であれば、都道府県の「教員育成指標」や、文化庁の「日本語教師の資質能力」に照らして）

備考	<ul style="list-style-type: none">・主に外国人児童生徒等の教育経験を有する教員・支援員を想定して開発したプログラムである。・管理職や指導主事が主な受講者の場合は、1では担当教員がどのような困難に直面しているかを想像して活動を行い、3の活動では、担当教員の専門性やキャリアをどのように評価すべきかを話し合う。・学生の場合は、外国人児童生徒等教育の担当教員になる事を想定して、プランを変更して実施する。例えば、1の活動では、経験者の体験談をもとに検討する。また、3の活動では、これから外国人児童生徒等教育や日本語指導担当教員だった場合、教師としてどのような困難があり、それをどう解決できるかを想像する。
----	--